

# 「スマホが危ない！」より抜粋

## SNSにハマリ

★不適切動画で身元を晒された少年！

三年前、高校の友だち数人と回転寿司店で食事をしたとき、面白半分でイタズラ行為をし、その様子を録画していた友だちがその時のInstagramのストーリーにアップした。仲間ウケを狙った、単なるおふざけ。中学の頃も、よく部活の友だちとファミレスに行くと、ドリンクバーでいろんなものを混ぜて、どす黒い飲み物を作ったりしてたし、その延長戦ぐらいのもりだった。違うのは、あの頃は周りの友だちも自分もスマホを持たせてもらえてなかったから、動画を撮ったりはしてなかった、ってこと。

でも、ストーリーの動画は、どうせ24時間で自動的に消える。そもそも友だちにしか見えないように設定していたし、別に何とも思ってた。ところがこの動画が、大問題になった。アップした動画をその場にいなかった友だちが、「あいつら、こんなことしてるよ」とさらに別の友だちにLINEで送り、その友だちがまた別の友だちに送る形で広がったらしい。やがてそれを見た僕の知らないある人が、「これ、まずいんじゃないの？」と、ダウンロードしてTwitterに投稿したことで一気に拡散。掲示板にスレッドが立ち、まとめサイトになり、「こいつらふざけてる！」のバッシングが巻き起こった。

すると、驚くほどのスピードで、自分の身元がSNS上で暴かれ始めた。まず、その動画を撮った店が有名チェーンの●●駅前店であることがすぐ特定され、一瞬だけ映るワイシャツの袖のマー

クや靴のデザインから当時通っていた学校名が割り出された。さらに、友だちが飲食店でのイタズラのことを鍵のかかっていないTwitterにも書き込んでいたために、そのフオロワーリストから僕も含めて連鎖的に紐付けられて、ついにはプロフィールや過去のツイートを、学校での部活も割れて、集合写真や中学の卒業アルバムまで発掘されていった。そしてどめは、掲示板に書き込まれたこの一言。「オレこいつ知ってるかも。●●高校の●●だよね？」それはまさに僕の本名だった。

自分たちのおふざけ投稿で苦い思いをしてから三年が経った。当時は、学校で厳重注意を受けて停学。親と一緒に動画に関わった全員で店まで謝りに行って、なんとか許してもらった。その後、不適切投稿はもって社会現象化し、ニュースで取り上げられるまでになった。もし、いまあの投稿をしていたら、謝罪だけでは済まなかったかもしれない。とはいえ、月日

が経てば苦い思いも薄れていく。不適切投稿のニュースを見てはチクリと心が痛むけれど、それ以外は普通の大学生活を送っていた。しかし、そんな毎日に変化が起きたのは、大学三年の就活が始まってからだ。自分自身、就活はすごくやる気だった。なんといつても人生が決まる一大事だ。OB訪問なんかもかなり積極的にやって、リクルーター面談も通過して、この分だと同期の中でもかなり早く就活終われるかな、なんて思っていた。そんなある日、突然「慎重に検討させて頂きましたが、誠に残念ながら、今回は貴意に沿いかねる結果となりました」と、不採用を知らせるお祈りメールがきた。あれだけ手応えがよかったのに・・・結構ショックだったが、まだ就活は始まったばかりだ。くじけず就活を頑張り続けた。

ところが、いつもいいところまで行って折られた。中には、「君なら、たぶん大丈夫」と人事に言ってもらえていた会社まで、不採用になった。どうしていいのか分からなくなり、就活初期にOB訪問させてもらったサークルの先輩に相談してみた。すると先輩は、「お前のためを言うけど、お前高校生の頃、SNSにふざけた動画を投稿して炎上したことがあるだろ？」と言った。「いや、でもアップしたのは別のやつだし、反省してみんな当時のアカウントも削除して、いまは自分は情報収集用のアカウントしか・・・」お前がアカウントを削除してても、当時のバッシングも、お前の本名も、全部まとめてSNSに残ってるんだよ。オレだって人事から怒られたんだから。炎上するようなやつを推薦して見る目ないのだから。完全に甘かった。まさかあのときの動画が、いまの就活に響いていたなんて・・・その後、先輩にはちゃんとした企業なら、最終候補者の名前くらいネットやSNSで検索して見てるぞってダメ押しをされた。問題を起せば、ネット

で、それが永遠に残るんだ。改めて痛感した。そしてハツとした。もしかしてそれは今回の就活だけじゃない。たとえ調べの甘い会社に勤められたとしてもずっとビクビクし続けなきゃいけないし、取引先にも何かのきっかけでバレるかもしれないし、勤め先がブラック企業だったとしても転職もままならないだろうし、結婚しようと思っても相手の両親が調べていけば確実に反対される・・・

はい、人生詰んだ。軽い気持ちのイタズラで、自分は一生を棒に振ったんだ。三年越しで改めて気づかされた。でも後悔も遅い。あの動画以外人生ほぼ真面目にやってきましたと思う。あのときはただ「いいね」がほしくて、周りの友だちが盛り上がりつつあるのが嬉しかっただけ。高校生の頃の若気の至り。でも一発退場。実際、就活も佳境の時期になり、同期の内定が聞こえてくる中、僕はまだ一社も内定をもらえないでいる。そして、当時の動画はいまもSNS上に転がっている。

それが永遠に残るんだ。改めて痛感した。そしてハツとした。もしかしてそれは今回の就活だけじゃない。たとえ調べの甘い会社に勤められたとしてもずっとビクビクし続けなきゃいけないし、取引先にも何かのきっかけでバレるかもしれないし、勤め先がブラック企業だったとしても転職もままならないだろうし、結婚しようと思っても相手の両親が調べていけば確実に反対される・・・

はい、人生詰んだ。軽い気持ちのイタズラで、自分は一生を棒に振ったんだ。三年越しで改めて気づかされた。でも後悔も遅い。あの動画以外人生ほぼ真面目にやってきましたと思う。あのときはただ「いいね」がほしくて、周りの友だちが盛り上がりつつあるのが嬉しかっただけ。高校生の頃の若気の至り。でも一発退場。実際、就活も佳境の時期になり、同期の内定が聞こえてくる中、僕はまだ一社も内定をもらえないでいる。そして、当時の動画はいまもSNS上に転がっている。

それが永遠に残るんだ。改めて痛感した。そしてハツとした。もしかしてそれは今回の就活だけじゃない。たとえ調べの甘い会社に勤められたとしてもずっとビクビクし続けなきゃいけないし、取引先にも何かのきっかけでバレるかもしれないし、勤め先がブラック企業だったとしても転職もままならないだろうし、結婚しようと思っても相手の両親が調べていけば確実に反対される・・・

はい、人生詰んだ。軽い気持ちのイタズラで、自分は一生を棒に振ったんだ。三年越しで改めて気づかされた。でも後悔も遅い。あの動画以外人生ほぼ真面目にやってきましたと思う。あのときはただ「いいね」がほしくて、周りの友だちが盛り上がりつつあるのが嬉しかっただけ。高校生の頃の若気の至り。でも一発退場。実際、就活も佳境の時期になり、同期の内定が聞こえてくる中、僕はまだ一社も内定をもらえないでいる。そして、当時の動画はいまもSNS上に転がっている。

# 須木中通信



# 鶴澤美枝子さん講演会

## 一步を踏み出す勇気を！

### 特別講演会！

「国歌で心は一つになる。絶体絶命になった時、背中を丸めて私を助けてくれ、訪れた国々の国歌が私を助けてくれた。そりやー、流石の私も何故こんな事をしてんだろ？と、時々思う事がある。その私がついてるものは、日本人としての誇り・勇気・体力、それと志！もっていかないものは、恐怖心とお金。」

須木中学校の生徒たちに足りないもの、それは一步踏み出す勇気です。それを克服するためにどうしても聴かせたかった鶴澤美枝子さんの魂の講演会が九月十五日に実現しました。六歳で大病を患い、下半身不随になるかも知れないという危機を乗り越え、歌手マリアカラスへの憧れから努力を継続中。独学で歌を学び、その歌で世界中を飛

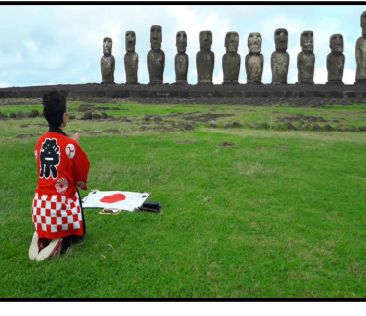


び回り、人を感動に導く行動力。六十歳でたった一人の世界ツアーをスタートさせて九年目の六十九歳。六十九歳とは思えないパワフルな言動と、諸外国での感動秘話にたくさんのお話が聞けました。何よりも、目の前にあの世界が認める鶴澤美枝子さんご自身が歌を披露されたら、生徒一人一人に魂の言葉を贈っていた

けたことがすばらしい財産です。生徒たちもたくさん感じる事ができたと感じます。失敗を恐れず、鶴澤さんのように前へ踏み出して欲しいです！

九月四日（金）、二回目となる朝の読み聞かせを企画いたしました。小林市須木図書館から山下さんに来ていただき、二冊（かげ、むかしねずみか）読んでいただきました。今回は、一・二年生が対象でしたが、みんな真剣に集中して聴いていました。最後に三名の生徒が率直な感想を発表しました。

九月四日（金）、二回目となる朝の読み聞かせを企画いたしました。小林市須木図書館から山下さんに来ていただき、二冊（かげ、むかしねずみか）読んでいただきました。今回は、一・二年生が対象でしたが、みんな真剣に集中して聴いていました。最後に三名の生徒が率直な感想を発表しました。



くや靴のデザインから当時通っていた学校名が割り出された。さらに、友だちが飲食店でのイタズラのことを鍵のかかっていないTwitterにも書き込んでいたために、そのフオロワーリストから僕も含めて連鎖的に紐付けられて、ついにはプロフィールや過去のツイートを、学校での部活も割れて、集合写真や中学の卒業アルバムまで発掘されていった。そしてどめは、掲示板に書き込まれたこの一言。「オレこいつ知ってるかも。●●高校の●●だよね？」それはまさに僕の本名だった。



九月一日は、防災の日。一年生が防災教育を行いました。講師を岩手県の岩手日報報道部次長の鹿糠敏和さんにお願ひし、「東日本大震災の取材と教訓から学ぶ」をテーマとしたオンラインでの授業を行いました。鹿糠さんは、大船渡市で津波に遭い、商業ビルの屋上に一時孤立したというご自身の経験や、屋上から撮影された動画等を使って分かりやすく説明して下さいました。当時幼かった一年生は、東日本大震災の記憶はなかったらしく、未曾有の震災であったことを知り、防災教育の重要性や考えを行動することの大切さを理解できたようでした。特に、犠牲になられた方々が残された教訓でもある五つの内容（遺訓）をしっか



り心に刻み、家族とも話し合ってみようという感想も聞かれました。私たちの生活する地域は、水害や土砂災害をはじめ、火山等にも気をつけて生活しなければいけない自然豊かな地域です。多様な視点で自分たちで考えて行動できる力を身につけて欲しいと願います。

九月四日（金）、二回目となる朝の読み聞かせを企画いたしました。小林市須木図書館から山下さんに来ていただき、二冊（かげ、むかしねずみか）読んでいただきました。今回は、一・二年生が対象でしたが、みんな真剣に集中して聴いていました。最後に三名の生徒が率直な感想を発表しました。

### 読み聞かせ！



### 豊かな表現力

太陽の 熱い視線を避けようと プールの中に飛び込む体 三年 水谷勇飛

# キャリア教育 職場体験学習

九月十日・十一日の二日間、二年生十人が小林市内の各事業所に体験学習でお世話になりました。社会の構造変化に伴い、働き方や仕事そのもの、在り方が著しく変容している世の中です。また、コロナ禍で多大な苦勞や工夫が求められる各事業所を、実際に訪問し、様々な事を体験し、レポート

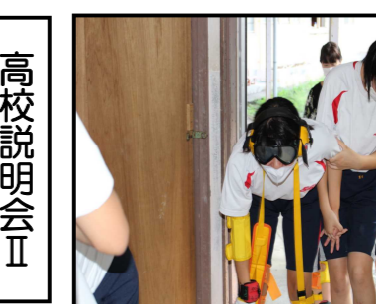
できたことは、教室では学ぶ事のできない貴重な時間であったと思います。この貴重な経験を今後



の学校生活には勿論ですが、生涯にわたるそれぞれのキャリアに活かして欲しいと思います。私も全ての事業所での活動を見て回りましたが、みんな緊張しながらもワクワクと目を輝かせて頑張っ



ていました。職業観や勤労観だけでなく、周りの人を幸せにする仕事の価値観等を肌で感じてくれたのではないのでしょうか。ご多用のなか、本校の職場体験にご理解とご協力をいただきました七事



をしました。疑似体験により、高齢者への理解を深めると共に、色々な事を感じ、幅広い視点での学びを得たようです。

# 確かな学力・豊かな心・健康な生活・たくましく生きる能力 をもち、たくましく生きる児童生徒を育てよう

## 須木中学校区の教育目標



業所の方々に心から感謝申し上げます。◇須木小学校様◇須木中央保育園様◇ユニクロ小林店様◇小林まちづくり株式会社様◇ネットトヨタひむか様◇RIZ GLAN様◇カフェMUSUMI様

「MRTラジオ私たちの作文！」  
「本との出会い」  
一年 四位 朋華  
私の本との出会いは、おそらく0歳の時からです。母がよく読み聞かせをしてくれました。その習慣からなのか、私としても本が好きです。読書が大好きです。保育園の頃、周りの子と馴染めなかつたとき、私に勇気を与えてくれたのが本でした。現在もですが、読書をする

「中学生になって」  
一年 東原 壮  
僕は、四月に中学生になりました。  
入学式の時、緊張で心臓がバクバクとなっていて、今にも飛び出しそうでした。そして、誓いの言葉の時には頭が真っ白になり、全然上手に話をする事ができませんでした。入学式が終わると、緊張感から解放されホッとすることができました。そして、次の日から中学

- ### 10月の主な行事！
- 1日(木) 生徒集会
  - 2日(金) 英語検定
  - 3日(土) 小林高校学習会
  - 4日(日) PTA奉仕作業
  - 8日(木) 県立美術館移動鑑賞教室
  - 9日(金) 1学期終業式
  - 10日(土) 秋季休業
  - 11日(日) 秋季休業
  - 12日(月) 秋季休業、家庭教育学級
  - 13日(火) 秋季休業
  - 14日(水) 2学期始業式
  - 15日(木) 第3回学力診断テスト(3年)
  - 16日(金) 第3回学力診断テスト(3年)
  - 19日(月) フリー参観日
  - 20日(火) 振替休業日
  - 21日(水) フリー参観日
  - 22日(木) フリー参観日、学校運営協議会、ふれあい給食鑑賞教室、フリー参観日
  - 23日(金) 小中合同運動会
  - 27日(火) 県大会出場選手推戴式
  - 31日(日) 小林市総合文化祭

「MRTラジオ私たちの作文！」  
「本との出会い」  
一年 四位 朋華  
私の本との出会いは、おそらく0歳の時からです。母がよく読み聞かせをしてくれました。その習慣からなのか、私としても本が好きです。読書が大好きです。保育園の頃、周りの子と馴染めなかつたとき、私に勇気を与えてくれたのが本でした。現在もですが、読書をする

「中学生になって」  
一年 東原 壮  
僕は、四月に中学生になりました。  
入学式の時、緊張で心臓がバクバクとなっていて、今にも飛び出しそうでした。そして、誓いの言葉の時には頭が真っ白になり、全然上手に話をする事ができませんでした。入学式が終わると、緊張感から解放されホッとすることができました。そして、次の日から中学

八月二十七日(木)、小林市社会福祉協議会の協力で、三年生が高齢者理解教育の授業を行いました。装具をつけて高齢者理解のために疑似体験

「手話で表現してみよう！」  
九月十日(木)、三年生がこすもす科の授業で、西諸聴覚障害者協会・小

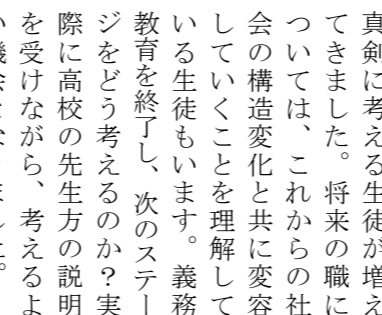
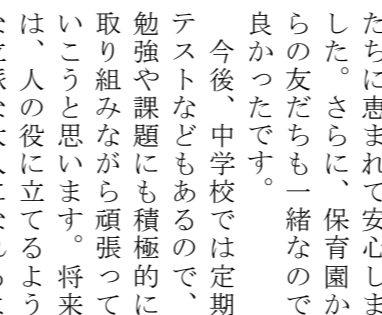
西諸地区中学校秋季体育大会の選手推戴式を行いました。新チームを結成しての初めての中体連です。緊張すると思いますが、日頃の練習の成果を全部出し切りたいと願いを込めて推戴式を行いました。剣道、ソフトテニス、バドミントン競技の健闘を祈ります。

## 「MRTラジオ 私たちの作文！」

## 高齢者理解

## 手話体験教室

## 選手推戴式！



校生活が始まりました。楽しみにしていた中学校生活は小学校との違いが多く、戸惑ってしまうこともあったけど少しずつ慣れることができました。教科ごと先生が替わって恥ずかしかったりしたけど、優しく良い先生たちに恵まれて安心しました。さらに、保育園からの友だちも一緒なので良かったです。

今後、中学校では定期テストなどもあるので、勉強や課題にも積極的に取り組みながら頑張っていこうと思います。将来は、人の役に立てるような立派な大人になれるように頑張りたいです。

今回は、都城工業高等学校、飯野高等学校、小林西高等学校、小林高等学校、小林秀峰高等学校の先生方の協力をいただきました。

八月三十一日、第二回目となる高等学校説明会(特色紹介)を行いました。生徒たちは、多様なキャリア教育の学習を通して、自分の個性を伸ばす事の大切さに気づき始めています。中学校卒業後のキャリアについても真剣に考える生徒が増えました。将来の職については、これからの社会の構造変化と共に変容していくことを理解している生徒もいます。義務教育を終了し、次のステップをどう考えるのか？実際に高校の先生方の説明を受けながら、考えるよい機会となりました。

林市手話通訳者派遣協会と連携して「手話で表現してみよう！」の授業を行いました。